

# 教師道場 NEWS

総合的な学習の時間特集

## 授業実践紹介

小学校第4学年

【共に生きる町～笑顔にあふれる町 大森～】

「ゲストティーチャーの話や白杖、車いすの体験を通して学んだことや自分の考えを整理する。」

## 【授業改善のポイント】

◇各教科等と関連させた単元計画

国語科や道徳科等と関連を図った単元計画を作成し、意図的に単元を計画することで、児童は国語や道徳で学んだ学習を生かし、地域の福祉に関する「人・もの・こと」について、探究的に学んでいくことができます。

◇思考を可視化するためのツールの活用



情報を整理していくために、付箋紙、ホワイトボード等を使い、思考を可視化していくことで、児童の対話は促進され、互いの情報を整理・分析し、共通点や問いを見いだしていきます。この際、「どのような意図で活用するのか」ということを教師が明確にもつことが重要です。

◇学びの自覚化を促す終末の振り返り



終末で、振り返りの時間を設定し、学んだことを再度整理することで、児童は、これまでの学習とのつながりや他者との交流によって分かったことなどを自覚していきます。児童の学びの深まりを想定し、計画的に振り返りの時間を設定することがポイントです。

## 協議・受講記録から



- 他教科との関連を意識した単元計画について考えることができていたのは、これまでの授業研究の成果だと感じた。
- 「分かったこと」、「分からなかったこと」を付箋紙を使って整理していた。整理することが目的ではなく、そのことから次の活動や方向性を見いだしていくために、「何のために整理するのか」ということを児童と共有できていたのがよかった。
- 「目標－指導－評価」に一貫性がある授業がよい授業であることを学んだ。そこがずれてしまうと自分の意図とずれてしまうことが分かった。

## 担当教授が考える授業力向上のためのポイント

- ◆児童が安心して思いや考えを素直に表現できる環境づくりをし、自己肯定感をもたせる言葉掛けをすることで、児童は主体的になり対話的な学びの土壌ができます。主体性を重視した対話は、目標から外れやすいのでゴールイメージを明確にしておく必要があります。さらに、教科等横断的な学びを意識させたり、振り返りの時間を十分に確保し、学びの自覚化を図ったりすることは「深い学び」につながります。 【総合的な学習の時間担当】